

第4章 ディレクトリとパスを使いこなして、
ほしいプログラムにたどり着け

ソフトウェアの国 Linuxを自由に動き回る

後閑 哲也 Tetsuya Gokan

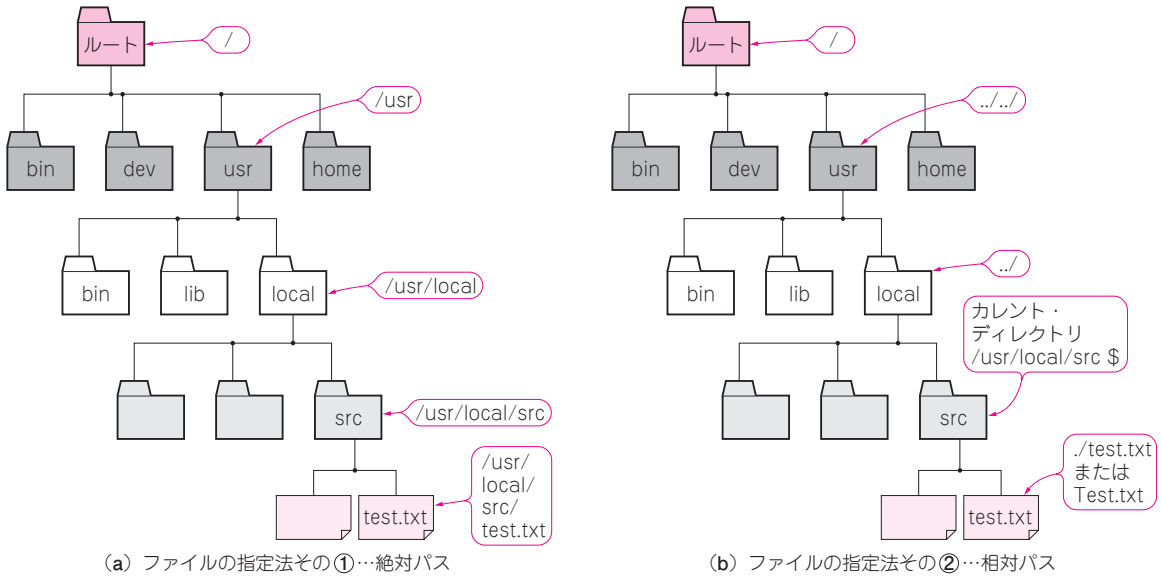
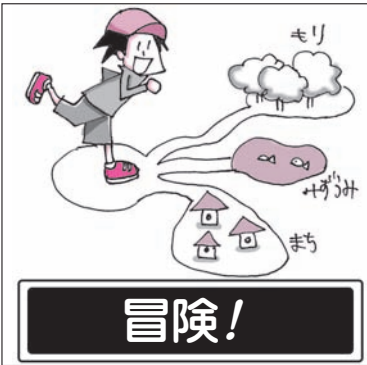


図1 Linux OSを構成するソフトウェア群は階層構造に整理されている
動かしたい処理プログラムを実行する前に、その場所を指定する必要がある。指定方法には(a)の絶対パス式と(b)の相対パス式がある

Linux OSは、ソフトウェアでできた一つの国のようなものです。動かしたいソフトウェア(自作プログラムや実行ファイル)があるなら、そのソフトウェアがある場所に行って「動け」と指示する必要があります。ソフトウェアの国Linuxは、階層構造になっており、住所を指定すれば希望の場所に移動することができます。本章では、ソフトウェアの国Linuxの中を自由自在に動き回る方法を紹介します。
(編集部)

ソフトウェアの実行は居場所を指定してから

- プログラムのありかにとどり着くための階層「ディレクトリ」と住所「パス」
前述のコマンドやインタプリタなど、Linuxを動かすプログラムは一体どこにあるのでしょうか？

Linuxは、住所を指定しないと動かしたソフトウェアを利用できません。住所は、県、市、町と同じようにいくつかの階層で管理されています。この階層をディレクトリ、住所(**県**市**町)をパスと呼びます。

Linuxカーネルは、コマンドもプログラムや実行ファイルの一つとして扱います。プログラムやファイルが存在する住所を指定しないまま実行を求めると、「そんなプログラムやファイルはありません」と、Linuxカーネルに怒られます。

ディレクトリはWindowsのフォルダ管理と似ていますが、Cドライブ、Dドライブという表現はありません。どのディスクに書き込まれているかという物理的な保存位置は無視されます。あくまでも論理的なディレクトリ名だけで扱われます。ファイルの保存先は、カーネルにゆだねられており、ハード・ディスクかもしれないしSDカードかもしれません。